

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870900145		
法人名	株式会社 アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ夙川		
所在地	兵庫県西宮市樋之池町16-4		
自己評価作成日	令和2年10月5日	評価結果市町村受理日	令和2年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の為、外食やお出かけ、日ごろのお買い物は控えさせて頂いていますが、できる限りマスクを着用したり時間帯を考慮しながら庭先や近隣の公園にお散歩にお出かけして頂いています。アクティビティに加えて、より脳を活性化されるトレーニングとなる学習療法を行っており、ご入居者のADLの維持に繋がったり、スタッフもコミュニケーションツールとして、スタッフのスキルアップにもつながっています。
Webを使用し健康体操や音楽療法を行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地にあり、散歩・買い物・外食等日常生活にも便利な環境である。現在は休止しているが、地域交流、地域貢献を継続し、利用者・事業所と地域とのつながりを大切にしている。毎日のアクティビティを工夫し、Webでの健康体操・音楽療法、学習療法、近隣の公園への散歩、施設内での秋祭りの開催等、制限が多い中、利用者が楽しみ、活動的に過ごせるように取り組んでいる。季節を採り入れた行事食や誕生日メニュー等「食」を楽しむ多様な機会を設けている。本社研修・施設内研修・委員会活動・人事考課制度など、職員の資質向上に努めている。職員の定着もよく、利用者・家族と馴染みの関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアの、常に目につく場所に、「運営方針」を掲示しており、その一項目として「地域と社会とともに」を掲げ、地域との関わりを持ちながら生活を送って頂けるよう取り組んでいます。	グループホームの理念・運営方針、アクティブライフ10の約束、マナー五指標語を明文化し、運営方針に地域密着型サービスの意義を明示している。運営方針を各フロアに掲示し、アクティブライフ10の約束、マナー五指標語を記したカードを携帯し、また、ミーティングで唱和して共有を図っている。理念の実践に向け事業所の年間目標を設定し、4月の施設内研修で発表し、進捗状況を確認しながら理念の実践に取り組んでいる。また、各職員が理念の実践につながる自己目標を設定し、人事考課制度の目標管理を通して理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域イベントへの協力や施設イベントへの参加やボランティア協力をおこない、地域の方との交流を深めています。	自治会に加入し、地域交流・地域貢献への取り組みを継続している。通常は、公民館で職員が健康体操の講師を務める等、地域イベントの開催協力を行っている。ボランティアセンターから折り紙・ハーモニカ・バレエエクササイズ等のボランティアの来訪を受け、また、認知症の理解等についてボランティア向けの講習を行っている。小学生の職場体験や中学生のトライやるウィークも受け入れている。夏祭りや餅つき等の施設のイベントには、地域の方の参加があり交流している。現在は、地域交流を休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館や小学校での交流の中で、音楽療法や健康体操を通じて、地域の方々に参加していただき、理解を深めていただけるよう努めています。		

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、現状報告、意見交換を行い、貴重な意見や助言をいただいています。また、できるだけご入居者にも参加頂き、生活のご様子や意見をお聞き出来るようにしています。</p>	<p>利用者代表・家族代表・地域代表（民生委員・自主防災会代表）、市職員（市の権利擁護支援者）・知見者（他事業所管理者）を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。（令和2年5月は休止。）会議では、資料をもとに利用者状況・行事・地域活動・事故事例・研修等について報告し、行事や生活の様子の写真を回覧している。参加者と質疑応答、意見・情報交換を行い、家族の要望・地域の情報・他事業所の取り組み等をサービスや運営に活かせるように取り組んでいる。議事録ファイルを施設の玄関に設置し公開している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>できるだけ窓口へ行き、コミュニケーションを取りながら現状を伝えたり、情報をいただいたりし、顔の見える関係性を築くように取り組んでいます。</p>	<p>運営推進会議に市職員・市の権利擁護支援者の参加があり、利用者状況や事業所の取り組み等を伝え連携を図っている。報告や相談の際は、できるだけ市役所の窓口に出向き、情報や助言を受けられるように努めている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「身体拘束適正化委員会」を設置し、身体拘束を行わないを基本方針とし、身体拘束がもたらす弊害を毎月のミーティングで読み合わせを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、緊急やむを得ない場合など要件を満たした上で説明や経過観察記録をとり、一日も早い解除を目指しています。</p>	<p>「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化委員会」を毎月のグループホームミーティングで実施し、身体拘束がもたらす弊害の読み合わせと、適正化に向けた検討を行っている。議事録を回覧し、職員の周知を図っている。施設内研修で年に2回「身体拘束について」の研修を実施している。施設内研修は、多くの職員が参加できるように同じ内容で2回実施し、参加者は報告書を提出している。参加できなかった職員にも資料を配布し、報告書の提出により周知を図っている。エレベーター・玄関は開錠操作が必要であるが、利用者が外出を希望した時は、職員が対応し閉塞感を感じないように支援している。</p>	

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が拘束や虐待に該当するかについて、社内研修センターでの研修や施設内研修にて防止の徹底に努めています。また、外部研修にも参加し、研修内容を共有し、意識の向上を図っています。	上記と同様の方法で、施設内研修の中で、「高齢者虐待と権利擁護について」の研修を行っている。マナー委員の活動等を通して、意図的でなくても不適切な言葉がけや対応になっていないかを振り返る機会を設け、意識向上に努めている。所長・管理者が職員への声かけを大切にし、相談しやすい関係づくりに努め、また、本社によるストレスチェックの実施・メンタルヘルスニュースの掲示・施設内研修でのメンタルヘルス研修など、職員のストレスや不安等がケアに影響を与えないよう取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見人制度」については、定期的に施設内研修を開催しています。	上記と同様の方法で、施設内研修の中で成年後見制度など権利擁護に関する制度についての研修を実施している。現在、成年後見制度を利用している利用者があり、後見人へ定期的な報告や金銭管理関連資料の提供等、制度活用のための支援を行っている。今後も、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、所長が関係機関と連携して支援する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書の読み合わせを行い、ご入居者やご家族がサービス内容についてわかりやすく説明が行えるよう心がけています。また、質疑応答に関しても、出来るだけ明確に回答ができるように心掛けています。	見学時に、パンフレットや、行事や日常生活の写真等を用いた説明資料に沿って説明している。契約前に自宅・病院・事業所等を訪問したり、また、体験入居も可能である。契約時には、契約書・重要事項説明書・入居のしおり・指針等をもとに、医療・緊急時対応等家族からの質問に答えながら、理解しやすい説明に努めている。契約内容の改定の際は、文書で説明し同意を得ている。	

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と施設、またご家族同士の意見交換の場として、半年に一度家族会を開催し、日頃のご来訪時にも積極的にお話を伺う様ように努めています。運営推進委員会で市職員等・地域関係者・知見を有する者などと話す機会が定期的にあります。	家族の面会、電話連絡、担当者会議等の機会に、家族の意見・要望の把握に努め、支援や介護計画に反映できるように取り組んでいる。緊急事態宣言発令時は、zoom面会等も行った。「グループホームだより」「介護レター」で、事業所や利用者個々の毎月の様子を伝えている。年2回「家族会」を開催し、また、法人による年1回の家族アンケートを実施し、家族が意見・要望等を表わしやすいように努めている。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、外部者に意見を表す機会も設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の職員とのコミュニケーションを最も重要と考え、どのようなことでも話のしやすい環境を作るように留意しています。毎月のミーティングの中での意見抽出や、半年に一度の個別面談でも意見などの吸い上げに努めています。	グループホームミーティング・各フロアミーティング・各種委員会等で検討し、職員の意見・提案を利用者支援・介護計画・業務・運営等に反映できるよう取り組んでいる。所長・管理者は職員への声かけを大切に、職員が話しやすい環境づくりに努め、日常的に意見の把握に努めている。設備・環境の整備や物品購入についても、職員の意見・要望を聴き反映している。年2回、目標管理の個人面談を行い、その中でも個別に意見を聞く機会を設けている。また、「意見箱」の設置、法人本部への「改善提案・報告」の提出、施設連絡会議等の仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度、管理者やリーダーとの面談を行い、取り組んだ業務の振り返りや今後の具体的な目標設定について話し合い、向上心を持ちながら仕事に取り組めるよう努めています。またリーダーから職員の勤務状況の報告や育成などの相談も行っています。		

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後、定期的に本社研修センターでの研修を受講し、ステップアップを図り、受講後の報告書は直属の上司も目を通し、力量の配慮に努めています。また、経験など考慮し、外部研修の受講も勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加や、他施設での運営推進会議に参加し、交流の機会を持っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご自宅、利用中の事業所や病院へ伺い、ご本人のこれまでの経緯や生活環境について、具体的に把握するようお話を伺うようにしています。また、こまめにご本人から要望など伺い、収集した情報は、共有を正確にできるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅の訪問以外に、電話での問い合わせにも丁寧に対応し、親身にお話を伺い、見学に来られた際にはご要望やご質問についても納得して頂けるよう説明に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望に対して、まず必要なサービスを説明、確認し、それ以外にもどのようなサービスやサポートができるのかを説明させていただき、介護職員や看護職員など多職種とで一緒に検討したうえで、インフォーマルなサービスの情報も提供するように努めています。		

アクティブライフ夙川

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活をお手伝いするという立場に立ち、生活の中で「してみたいこと」や「継続してみたいこと」などを日常のコミュニケーションの中からくみ取り、実践できるよう努めています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ連絡の際やご来訪時に、些細なことでもご様子をお伝えしたり、一緒にご本人にとってより良い対応を相談したりしています。また行事の日程を事前にご案内し、ご家族の参加をお勧めし、一緒にサポートする姿勢を示すよう努めています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもどなたでも、ご来訪可能としており、ご家族以外でもお友達や同級生のご来訪者もいらっしゃいます。どなたであっても挨拶は欠かさず丁寧に対応するように心掛けています。ご入居前の医療機関を引き続き主治医としたり、外出の際には母校や思い出の場所など馴染みの場所も加えています。	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報は「入居前面談記録」に、日々の関わりの中で把握した情報は「ケース記録」に入力し共有している。通常は、家族や(家族了承のもと)友人・知人の来訪時には、主に居室でゆっくり過ごせるように応対し関係継続を支援している。デイサービスとの合同イベントも、馴染みの人と会える機会となっている。スーパー・デパート・公園・医療機関・母校等、馴染みの場所への外出は個別の外出支援を活用して行っている。現在は、面会は家族に制限し、外出も控えている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ダイニングやサロンは幾つかのテーブルを設置しており、ご入居者が常にお好きな席に座りコミュニケーションがとりやすい配置にし、スタッフが話のきっかけや話題づくりに努めています。また、他のご入居者とコミュニケーションをとる事が難しい方は、スタッフが間に入り関わりを持っていただけよう努めています。		

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された方のご家族には、入居中の写真アルバムにし、差し上げています。また、外部参加が可能なイベントの場合は、電話でのご案内や案内状を送付し、参加を呼び掛けてたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、できるだけ個別の希望や意向をくみ取るようにし、記録に残してスタッフ間の共有把握に努めています。会話が困難な方に対しては、表情・態度・行動などからくみ取るよう努め、ご家族からの聞き取りの機会を増やすように努力しています。	入居時に把握した思いや意向は「入居前面談記録」に記録し、日々のコミュニケーションを通して把握した内容は「ケース記録」に入力し、申し送り等で情報共有している。好きな歌を音楽療法に取り入れたり、趣味や生活習慣から体操や学習療法への参加を勧める等、内容に応じて介護計画にも反映し、継続的な支援ができるよう努めている。意思の疎通が困難な場合は、家族からの情報を参考にしたり、利用者の表情・反応・行動から汲み取り、利用者の立場で検討し把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴・趣味・嗜好などは、ご本人やご家族、主治医からできるだけ詳しく伺い、記録に残し、職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のご様子やご要望、心身の変化などは、その都度記録(PCほのぼのNEXT)に入力し、重要な事は申し送りにして職員全員が把握し、対応の周知ができるように努めています。		

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を伺い、多職種で検討し介護計画を作成しています。ご本人・ご家族に説明を行い、作成後も期間内に変化が見られた場合は、サービス担当者会議を行いながら、常に現状に則した介護計画の作成に努め、毎月モニタリングを行い、話し合い検討しています。	「入居前面談記録」・「ケアチェック表」・家族からの情報等をもとに、初回の介護計画を作成している。介護計画をフロアミーティングで周知するとともに、ファイルを各フロアに設置し都度確認できるようにしている。ケアの実施状況をシステム内のケース記録に入力し、種別「ケアプラン用」を活用し、介護計画にもとづいた実施を記録できる仕組みがある。毎月、担当職員がモニタリングを行い、フロアミーティングで検討し、必要時には随時、定期的には1年毎に介護計画の見直しを行っている。見直しの際には、毎月のモニタリングと「ケアチェック表」による再アセスメントをもとに、担当者会議を実施している。会議には、本人・家族・担当職員・ケアマネジャー・看護師等が参加し、主治医等関係者の意見は照会表により把握し、介護計画の見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子は、記録(ほのぼのNEXT)を種別ごとに入力し、どの職員も常に記録の確認を行いながら業務できるようにしています。その日の業務にあたるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門職員での対応、他部署からの応援、ボランティアの利用で対応するなどし、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の馴染みの病院やスーパー、公園などへ出かけたり、体育館を利用し趣味のスポーツを行い、社会との関わりを持ちながら、今までの習慣の継続ができるよう支援しています。また、夏祭りやもちつきでは地域の方も参加頂き、行事を通して交流を深める機会も作るよう取り組んでいます。		

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族の希望を確認し、主治医を選択していただき、必要に応じて訪問診療などの情報提供をおこなっています。また、嘱託医により月1回の巡回診療をご入居者全員に行い、各受診時には、施設看護師または職員が付き添います。</p>	<p>入居時に確認し、利用者・家族が希望するかかりつけ医による受診を支援している。月1回利用者全員が協力医療機関による巡回診療を受診でき、また、月1回の歯科の定期検診を希望に応じて受診できる体制がある。医師への受診前の情報提供は「ケース記録往診」に記載し、受診時は主に看護師が対応し、医師からの指示は「医師指示事項欄」に記載している。かかりつけ医・専門医等への通院介助は事業所が対応し、受診結果は「受診記録」に記載し、「申し送り」で職員間で共有している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師も、記録(ほのぼのNEXT)の観覧と記入を行い、ご入居者の日々の様子についてリアルタイムでの情報共有が図られています。受診や往診の際は、医師からの指示などを記録に残し共有し、介護と看護の協働支援体制ができています。</p>		
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>お見舞いに伺う際に、担当医・担当看護師・療法士などから状況を聞き取り、早期退院に向けての、ご家族との共同を心掛けています。また、退院時は退院後の注意事項などを聞き取り施設職員で周知し、主治医への連絡調整などの役割に注意深くあたるようにしています。</p>	<p>入院時には主に看護師が付き添い、口頭と「看護サマリー」で、入院先医療機関に情報提供している。通常は、入院中は家族・担当医・担当看護師・療法士等と連携を図り、早期退院に向け支援している。現在は、主に電話で、医療連携室から利用者の状況を把握している。入院中の情報は、システムの「お見舞い」「入・退院」等に記録し、職員間で共有している。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、担当者会議で介護計画の見直しを行い、退院後の支援に活かしている。</p>	

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について、ご家族に対しグループホームで対応できることを説明しています。ご入居者に変化があった場合は、ターミナルケアについても医師とご家族との話し合いの場を設けながらその都度グループホームで出来ることを説明し、確認を取りながらどのように過ごしていただくか話し合いを行っています。	契約時に、「重度化した場合の指針」に沿って、重度化・終末期に向けた方針と、事業所でできること・できないことを、家族に説明し同意を得ている。重度化を迎えた段階で、医師・家族と話し合いの場を設け、医師が状況を説明し、事業所からも再度説明し、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、「看取りの介護計画」を作成し、家族の意向を随時確認しながら、意向に沿った支援に取り組んでいる。施設内研修で、「看取りについて」の研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月2名を対象とし、施設内研修を開催し、急変時の対応や心肺蘇生、AEDの取り扱いについてロールプレイや作業確認を行っています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し、年2回の通報・消火・誘導訓練を行い、手順の確認やタイムを測定しています。地震などの災害時に備え、全職員がメールで安否確認などを行えるよう訓練しています。また、災害時に備え、食品・飲料水・懐中電灯などの備蓄をしています。	年2回夜間想定での通報・消火・誘導訓練を、利用者もできる限り参加して実施している。「タイムテーブル」「消防訓練を終えて」に対応手順・評価・反省等を記録し、参加できなかった職員にも訓練の実施内容を周知している。災害時に備え「SOSメール」を全職員に発信し、安否確認・救助要請の訓練を実施している。消防署と連携し、要請時には立ち合いもある。職員が利用者役となり、布団を使用して移動する等、実践的な訓練に継続的に取り組んでおり、消防署から表彰を受けている。運営推進会議に自主防災会代表の参加があり、意見や助言を受け連携を図っている。飲料水・食糧を3日分・懐中電灯等の備品を備蓄し、責任者を所長として管理している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の一つである「尊厳を保つ」事を意識し、マナー・認知症・身体拘束・権利擁護の勉強会を定期的に行っています。また、マナー委員では日頃の対応で気になることなどをアンケートにて意見収集を行い、見直しをする機会を作っている。	運営方針（「利用者の尊重」「尊厳を保つ」等）、「マナー五指標語」を、掲示・唱和・カード携帯等で共有し実践に取り組んでいる。施設内研修で、「接遇」「権利擁護」「コンプライアンス」についての研修を定期的実施している。職員アンケートを実施して意見を収集し、言葉かけ・対応等を検討し、職員間で共通理解を図っている。施設内のマナー委員が本社のマナー委員会に参加し、施設内のテーマを半年毎に決めて実践につなげる取り組みがある。利用者の写真等の使用については、「肖像権等使用についての承諾書」で契約時に同意を得ている。個人記録等はスタッフルームの鍵付きのキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のお話の中からも、ご本人の希望（潜在的な希望も含む）を引き出すように意識をしたり、声掛けや関わり方を心掛けています。また、ご本人に安心して何でも話せる身近な存在と感じていただけるよう、寄り添い働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かなスケジュールは決めずに、食事やアクティビティなどの日課となるようなこと以外は、基本的に自由に過ごして頂くことを旨としています。アクティビティなどの参加・不参加もご自身で決めていただき、買い物などの希望があれば、出かけていました。（現在、買い物は代行で行っています）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力を頂き、ご本人が気に入ってらっしゃる洋服や小物をお持ちいただいたり、お化粧の習慣があった方には、出来るだけ続けて頂くように支援させていただいています。また、好みのヘアスタイルをご家族からお聞きし、継続する事も心掛けています。		

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各フロアで、ご飯を炊き、みそ汁は鍋を温めてよそうようにしています。スタッフと一緒にお茶を入れたり洗い物をするなどの役割分担を持っていただくようにしています。行事には旬の食材を取り入れるようにし、誕生日にはお好きなメニューを提供できるよう、ご希望を聞くようにしています。	食事は施設内の厨房で調理され、炊飯・温め・盛り付けを各フロアのキッチンで行っている。利用者も、可能な範囲で参加できるよう支援している。献立に旬の食材や季節感を採り入れ、月1回の行事食に行事ごとの趣向が凝らされ、「秋の味覚を楽しむ会」も企画している。各利用者の誕生日には、希望する献立を全利用者に提供しお祝いしている。咀嚼や嚥下状態・体調に合わせ、食事形態やメニューを変更する等、個別対応を行っている。利用者の感想等を「検食ノート」に記録し、各部署と厨房の「食事ミーティング」(月1回)で検討し、調理方法や献立に反映している。本社アンケートで把握した意見も反映している。落ち着いて食事ができるようテレビを消し、座席配置にも配慮している。現在は休止しているが、希望に応じて、喫茶や外食に個別の外出支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示がある方や、個人の咀嚼や嚥下状態にあった、それぞれの食事形態に合わせ、調整しながら提供しています。体調の変化に対しても気を配り、臨機応変にメニューの変更をしたり、咽やすい方に対しては、ゼリー状にて水分摂取しやすくように用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は毎食後に口腔ケアをお勧めしています。その方に合ったブラシを使用し、ご自身で出来るところは行って頂き、お一人では難しい部分はお手伝いさせて頂いています。また、ご希望者は毎月、定期歯科検診を受けておられます。		

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表(PCほのぼのNEXT)に入力し、分析しながらパターンの把握に努め、トイレでの自然な排泄に導けるよう心掛けています。また、ご本人の日中と夜間の状態をみて、使用する下着を使い分ける場合もあります。	「排泄チェック表」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、早めの声かけや誘導等を行い、日中はトイレで自然な排泄ができるよう自立支援に努めている。夜間帯は安眠にも配慮し、個々の状態に合わせた支援を行っている。状態の変化は毎月のカンファレンスで検討し、現状に合った介助方法や排泄用品の使用につなげている。日々の変化で検討が必要な際は、随時のミーティングや申し送りで検討し、ケース記録で経過を共有しながら対応している。誘導時の声かけ等、プライバシーや羞恥心への配慮を周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずは個人の状況に合わせた運動や水分補給、乳酸菌飲料、ヨーグルトなどで調整できるよう気をつけ、医師や看護師と連携して、場合により体調やその方に合わせた緩下剤の服用量・服用法を観察・相談し注意深く適用する様に取り組んでいます。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中に入浴される方や夜間に入浴される方がいらっしゃいます。ベースとした予定表はありますが、ご本人の体調や気分の変更しており、できるだけご本人のご希望の沿った入浴のタイミングで対応させていただいています。	週2回以上の入浴を基本とし、「予定表」をベースに朝・夕方・夜間の時間帯で、利用者の生活習慣・体調・気分等に合わせた入浴ができるよう支援している。利用者の状態に応じて、リフト浴が使用できる設備がある。希望に応じて同性介助で対応し、入浴を嫌がる利用者には足浴・清拭で対応する等、個々に応じた対応で清潔保持に努めている。一人ずつ更湯にし、歌やコミュニケーションを楽しむ等、個々のペースでゆっくり入浴できるよう配慮している。しょうぶ湯・ゆず湯等、季節感を感じる機会も設けている。	

アクティブライフ夙川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝時間は決めず、好きな時間に休んでいただくようにしており、その方の体質などを考慮し、ベッドマットレスや、かけ布団、枕などを変えたりすることがあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書で各自の服用方法や効果、副作用についても把握できるようにしています。降圧剤や緩下剤なども、ご本人の状態やこれまでの習慣を看護師や医師に報告し、相談しながら調整してもらっています。薬が変わった場合は、変更になった薬について共有し、注意深く様子観察を行い、変化があれば、看護師や医師に報告・連絡を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や楽しみに関して、出来るだけ個別に把握し、場の提供やきっかけ作りなどに留意しています。特に歌唱はお好きな方が多く、日々の中でもその方々が記憶に深く残っている歌や、お好きな歌と一緒に歌い気分転換していただけるよう心がけています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候やご入居者の体調をみながら、できるだけ普段から近くへ出かけて頂けるようお手伝いし、ご家族との外食やお出掛けも、継続できるようサポートさせていただいていました。(現在は感染拡大防止のため対応できていません。)	例年は、気候・体調・希望に合わせて、近隣の公園への散歩や買い物・喫茶等に出かけられるよう個別の外出支援に努めている。初詣、観梅、花見、紅葉ドライブ等季節を楽しむ外出や、年1回淡路島等遠出の外出の機会を設けている。今年度は、車でドライブに出かけ、車内から桜・梅等季節の花を観る機会を設ける等、感染予防に努めながら外出の機会作りを工夫している。	

アクティブライフ夙川

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心感の為に持ちになっている方やもいらっしゃいます。外出時にお財布に立て替え金を入れ、レジでの清算をおこなっていました。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロアへ設置されている固定電話を利用し、ご本人自からの通話が可能です。ご家族からの受信は何時でも可能としており、希望のある場合は携帯電話の持ち込みや、居室に電話機を設置する事も可能としています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や照明、室温に関しては最大限の注意を払い不快な事がないように気をつけています。特に夜間の室温調整や照明には留意しています。また、職員はご入居者と共同して、季節の飾りつけやカレンダーの作成を行い、作成しながらも季節を感じて頂けるよう取り組んでいます。共有フロアで、個別になじみのある曲を順に流したりもしています。	各フロアは、サロン・ダイニング・キッチンからなり、テーブル席・カウンター席・椅子等を適所に配置し、光・照明や温湿度に留意し、思い思いの場所で快適に過ごせるよう環境整備に努めている。利用者と一緒に制作した季節の飾りつけを行い、キッチンから調理の音や匂いがあり、また、可能な利用者には食事づくり・洗い物・洗濯物たたみ等家事参加を支援し、季節感・生活感を大切にしている。サロンのカレンダーに記入された午前・午後の予定に沿って、朝の会・歌の会・健康体操・音楽療法等、毎日のアクティビティを継続し、利用者とのコミュニケーションを図りながら、身体機能の維持ができるよう取り組んでいる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用可能な共用空間は、ダイニングとサロンであり、それぞれのご入居者が自然に居心地の良い場所を定め、くつろいでおられます。		

アクティブライフ夙川

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限りご自宅などで使い慣れた家具や寝具、絵などを自由にお持ち頂いています。また、ご本人が安全に動きやすいよう、家具などの配置も配慮しています。	各居室に、ベッド・クローゼット・洗面台・床頭台・加湿器等が備えつけられている。引き出し・鏡台・テレビ・寝具等使い慣れた家具や道具の持ち込みを勧め、居心地よく過ごせる環境づくりを支援している。また、家庭で使っていた茶碗・湯呑み・お箸等、持ち慣れた食器で食事をするようにも勧めている。利用者のADLに合わせて、手すりの設置・ベッドの位置変更・クッション材取り付け・段差緩和等を工夫し、安全に自立した生活を継続できるよう環境整備に努めている。衣替えや物品購入の際は、利用者担当の職員が随時家族と連携を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、フロア、トイレ、浴室、エレベーター、洗面台に手すりを設置し、安全に歩行できるよう配慮しています。必要であれば居室にも設置しています。また、車椅子の自走をスムーズに行えるように、少しの段差にも傾斜をつけたり、角にクッション材をつけたり、トイレの表示を変えるなどし、安全でわかりやすい環境を整えています。		